

所属・資格 社会学科・教授

申請者氏名 久保田 裕之

研究課題		「男女の友情」に対する態度の規定要因
報告の概要	研究目的 および 研究概要	現代社会における恋愛と友情の間の緊張関係を検討するために、これまで雑誌やテレビなど様々なメディアにおける常套句として繰り返し語られてきた「男女間に友情は成立するか」といった問いを検討することは有益である。前年度の雑誌記事分析を踏まえて、今年度は若年層を対象とした大都市調査から「男女の友情」に対する態度がどのようなもののように規定されているかを検討した。
	研究の 結果	結果として、『ゼクシイ』による web 調査（2022年）や、マクロミルによる調査（2024年）と同様の結果であるものの、1) 全体として肯定的な回答が5割に対して否定的な回答が1割強程度（3割程度が「わからない」）であり、その中でも、2) 男性よりも女性の方が肯定的になり、3) 年代が下るに応じて肯定的になり、4) 実際に異性の友人の数が増えるほど肯定的になることが示唆された。
	研究の 考察・ 反省	調査の限界から、従来の知見を超える新たな知見には乏しいものの、従来の記述統計を超えて同様の結果が示されたことには一定の意義がある。今後は、従来から問われてきた質問項目の中でも、「成立する」ことの意味、とりわけ、男女の友情が一時的に成立すること／男女の友情が友情のまま継続すること／男女の友情がどちらかの恋愛感情の抑制によってかろうじて維持されるわけではないこと、といった内実を分離できる質問項目が必要となると考えられる。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日／場所  研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>&lt;研究成果物&gt; 久保田裕之、「友人関係と共同的親密性——『友人関係は結婚を代替しうるか』という奇妙な問いをめぐって」、『現代思想（＜友情＞の現在）』、52(9):45-54、2024年5月27日、青土社 久保田裕之、「多様なパートナーシップ・ケア関係を考える——「最小結婚」の観点から」、『ポリアモリーウィーク 2024 講演録——恋人はひとり、じゃなくてもいい』4:8-40、2024年10月26日、ポリアモリーウィーク実行委員会</p>	